

## 高品質な高原野菜を消費地に届けるため、長坂～八千穂の早期整備を求める

長野八ヶ岳農業協同組合 農業部長 新津正幸

### 日本一の高原野菜の産地

J A長野八ヶ岳は、長野県の東の端に位置し、小海町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村の1町4村にまたがります。

農地の標高は、850～1,500mであり、生産量はレタス、ハクサイを中心に年間1,900万ケースの出荷があります。夏場の冷涼な気候を生かし、また、大消費地に近い利便性もあり高原野菜作りが盛んになりました。

取引市場は、北は仙台、南は鹿児島まで100社ほどあり、そのほとんどが翌日に届けられています。毎日大型トラックで200台前後の発送があります。

夏場は日本一の高原野菜の産地となります。

### 鮮度が高い高原野菜を届けるために

野菜は鮮度が命であります。J Aとしましては、その鮮度を保つために各集荷場で約30億円を超える、冷蔵施設を完備し、輸送も冷蔵車を使用するなど、様々な工夫を重ねて、鮮度が高い野菜を全国各地に出荷しています。過去から、経費と手間をかけて野菜の鮮度保持を図ってきました。

近年は、お客様ニーズの多様化に合わせ、朝採り販売として、収穫した野菜をその日のうちに販売をする形態が増えてきています。現在、首都圏や中京圏向けに約20万ケースを届けています。

また、コールドチェーン輸送体制の確立を強く望まれており、量販店のセンターや加工会社の工場へ直送する取引が増えていきます。

多様化するニーズに合わせた出荷先も多岐にわたるので当然、時間との戦いが、以前より厳しくなっています。

加えて、運輸業界からトラック運転手の拘束時間の短縮による労働環境の改善なども求められています。

中部横断自動車道 長坂～八千穂の早期開通により、全国への輸送時間が、大幅に短縮され、鮮度と時間の問題が解決されると期待しています。

### 安心して地域で生活するために

現在、南佐久地域を南北に貫く幹線道路は、国道141号しかありません。う回路がなく、災害時には陸の孤島になりかねない状態であり、生活にも支障をおよぼしかねない状況です。代替路の確保は当地域にとって非常に重要な課題といえます。

このような状況であり、地域農家、地域住民の皆様からも中部横断自動車道の早期整備を要望している声が多く聞かれます。

農業協同組合としても中部横断自動車道の早期開通を強く要望いたします。